

### 3. 昭和39年度配布精液による乳牛の受胎調査並びに昭和38年度配布精液による産子調査

秋永隆雄 芝崎 卓  
荒岡昭可

#### 1. 総括

種別	人工授精頭数		受胎頭数	不受胎頭数	性別不明頭数	平均授精回数	受胎率 実頭数に対し
	実頭数	延頭数					
乳牛	3,223	5,678	1,754	990	479	1.76	63.9%

#### 2. 受胎成績の分析

##### 1) 産確牛別受胎成績

産確牛名号	生年月日	産地	人工授精頭数	受胎頭数	受胎不明頭数	受胎率 (%)
14ハリアル バッシー トリストラー	30.6.4	当場産	533	292	94	66.5
19ガバナー バッス ローヤル キング	32.6.7	北海道 新田牧場	38	22	6	68.8
14ハリアル ミドリ サー トリストラー	33.9.8	当場産	417	252	62	70.9
スプリングキープフル アマバスター ラッド	35.10.14	"	469	227	75	57.6
バターポイントトリストラー ミドリ	35.12.15	北海道 新田牧場	394	211	58	62.8
ウオーカーロバール ミドリ フォリリー	36.7.27	当場産	166	80	18	54.1
133ウオーカー ハル リーガル	36.12.1	岩手県 小岩井	191	127	22	75.2
ローバース リリー ポッシュ ロバール	37.10.28	当場産	409	205	57	58.2
ローバース フォスパクト アルティエ ローヤル	37.11.29	"	260	177	35	77.8
122 ローモント サーフィーマールポープ	38.4.25	岩手県 小岩井	76	34	8	50.0
14 キング バッシー クレスト	38.5.16	福島県 鹿野牧場	270	127	44	56.3
計			3,223	1,754	479	63.9

2) 種産牛の季節別受胎成績

季 別	人工授精頭数		受 胎 頭 数	妊否不明 頭 数	受 胎 率 (%)	
	実頭数	延頭数			実頭数に対し	延頭数に対し
春 (4~6月)	1,031	1,422	579	123	63.7	44.5
夏 (7~9)	729	1,476	372	134	62.5	27.7
秋 (10~12)	692	1,325	405	115	70.2	33.5
冬 (1~3)	771	1,455	398	107	60.0	29.5
計	3,223	5,678	1,754	479	63.9	33.7

3) 種産牛の地域別受胎成績

地 域 別	人工授精頭数		受 胎 頭 数	妊否不明 頭 数	不 妊 頭 数	平 均 授 回 精 数	受 胎 率 (%)	
	実頭数	延頭数					実頭数 に対し	延頭数 に対し
区 内	50	63	12	38	0	1.3	100.0	48.0
北多摩郡(含市部)	571	875	215	101	255	1.5	45.7	27.9
南多摩郡( )	361	506	152	53	156	1.4	49.3	33.6
西多摩郡( )	2,111	4,065	1,339	198	574	1.9	70.0	34.6
郡 外	130	169	36	89	5	1.3	87.8	45.0
計	3,223	5,678	1,754	479	990	1.8	63.9	33.7

4) 雌牛の回数別受胎成績

回 数 別	人工授精頭数	受 胎 頭 数	不 妊 頭 数	妊否不明 頭 数	受 胎 率 (%)	受胎頭数に 対する割合
1	1,726	948	580	198	62.0	54.1
2	768	463	165	140	73.7	26.4
3	351	169	106	76	61.5	9.6
4	201	104	57	40	64.6	5.9
5以上	177	70	82	25	46.1	4.0
計	3,223	1,754	990	479	63.9	100.0

5) 前年度との比較

年 度 別	人工授精頭数		受 胎 頭 数	不 受 胎 頭 数	妊 否 不 明 頭 数	受 胎 率 (%)	
	実頭数	延頭数				実頭数 に対し	延頭数 に対し
38	3,213	5,316	1,748	730	735	70.5	38.1
39	3,223	5,678	1,754	990	479	63.9	33.7

### 3. むすび

当場において、配布した精液による乳牛の受胎、並びに産子の状況を把握し、人工授精事業上の資料とするため、本調査を実施した。その成績を要約すると、受胎率は、前年度より 稍々悪く、季節別についてみると、春季が最も高く、以下、秋季、冬季、夏季の順に低下し、又、地区別では、西多摩地区、南多摩地区、北多摩地区の順に低下しており、ほい、前年同様の傾向がみられた。受胎率低下の原因としては、夏季における異常高温の影響による、生理機能の減退によるものと推察されるが、全般的に都下の乳牛の受胎率は、全国的にみて、かなり低位にあって、経営を不安定ならしめる一因ともなっており、このことは飼養規模拡大に伴う、飼養環境条件の悪化に起因するものと考えられるので、繁殖技術の向上とともに飼養改善に関する技術の普及、徹底を期する必要があると思われる。

### 4. 豚の椎骨数の変異と産肉性に関する研究

宮川正夫・菅原兼太郎

大橋昭也・加藤巳之吉

#### 1. 目的

豚の改良は、体型的には体躯の伸びと、後躯の充実、能率的には、背脂筋を薄くすること、肥育速度および飼料要求率ならびに枝肉歩留の向上を目標としているが、元来、豚の椎骨数には変異があり、この多少は、屠体の長さに関与し、さらには産肉量にも影響があるのではないかと云われているので、胴伸びの良い産肉性のすぐれた豚の選抜技術を得る目的をもって本研究を実施した。

#### 2. 研究方法

##### (1) 研究期間

昭和36年度～昭和39年度

##### (2) 研究方法

##### 1) 椎骨数の変異に関する調査

生後7日前後の子豚をエーテル吸入法によって麻酔し、40 mA型レントゲン撮影装置を用いて直接撮影を行い、その胸膈性数を調査した。